

繪本豐臣勲功記

四編

壹

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

櫻澤堂山編輯
一勇齋國芳畫

八咫鳥必用

繪本豐臣勲功記

四篇

浪華書肆

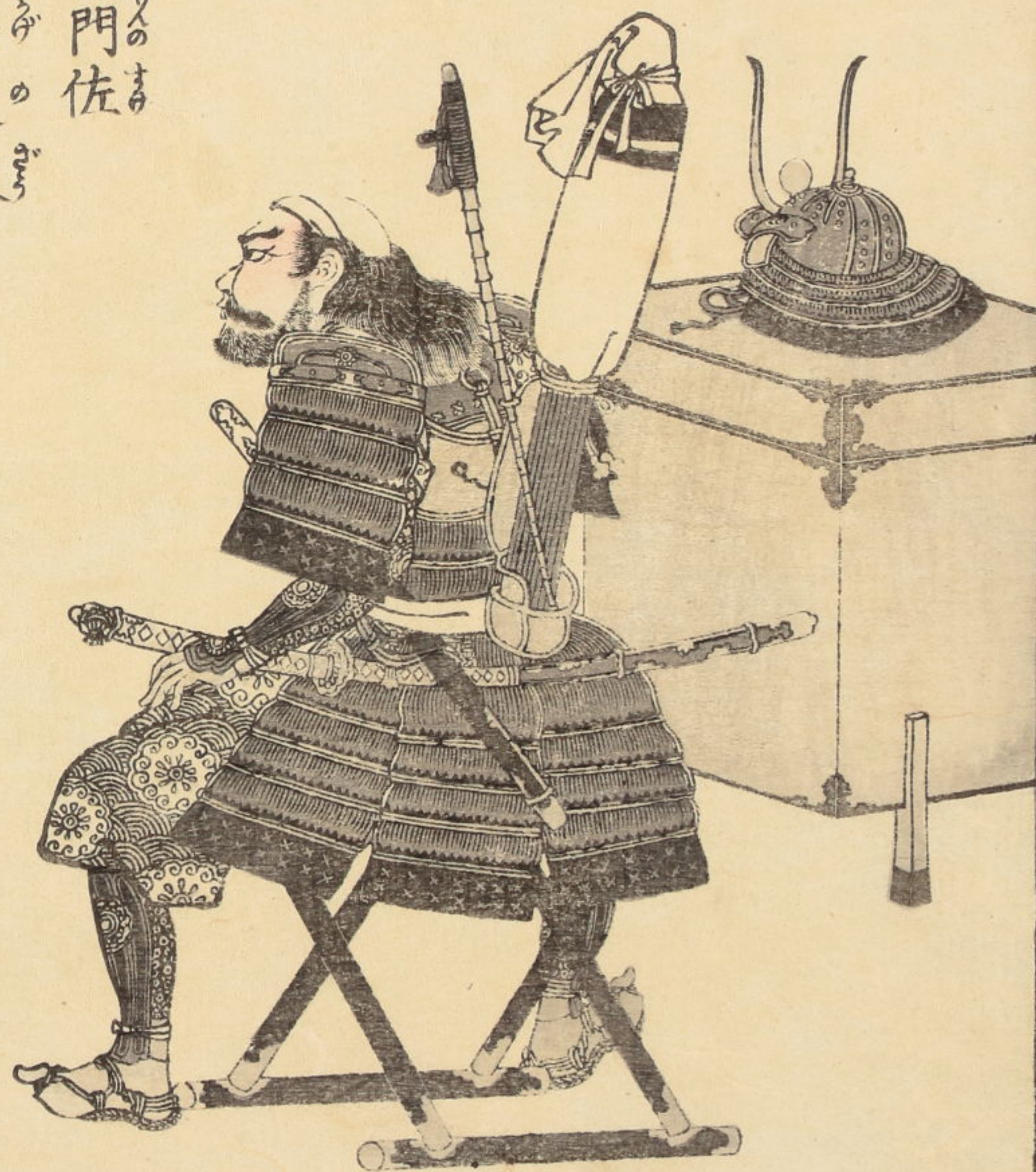
群玉堂
文海堂



藝州廣島城主
毛利右馬頭
大江輝元之像



小早川左衛門佐
大江隆景之像



吉川駿河守
大江元春之像



備前國岡山之城主

浮田和泉守直家之像



羽柴
筑前守
秀吉
之
醉
像



尼子孫四郎勝久之像
あまこ しろひきの
うしろう かつひきの
がう



尼子勝久之
あまこ しろひきの
うしろう かつひきの
がう
臣山中鹿之
すけのり
助幸盛之像



和州
志貴山之城主
松永彈正大弼
久秀之像



繪本豐臣勲功記四編壹之卷

目録

淺井朝倉逐段陷本下謀

屬大實檢賊

蒙勅織田朝倉淺井和睦

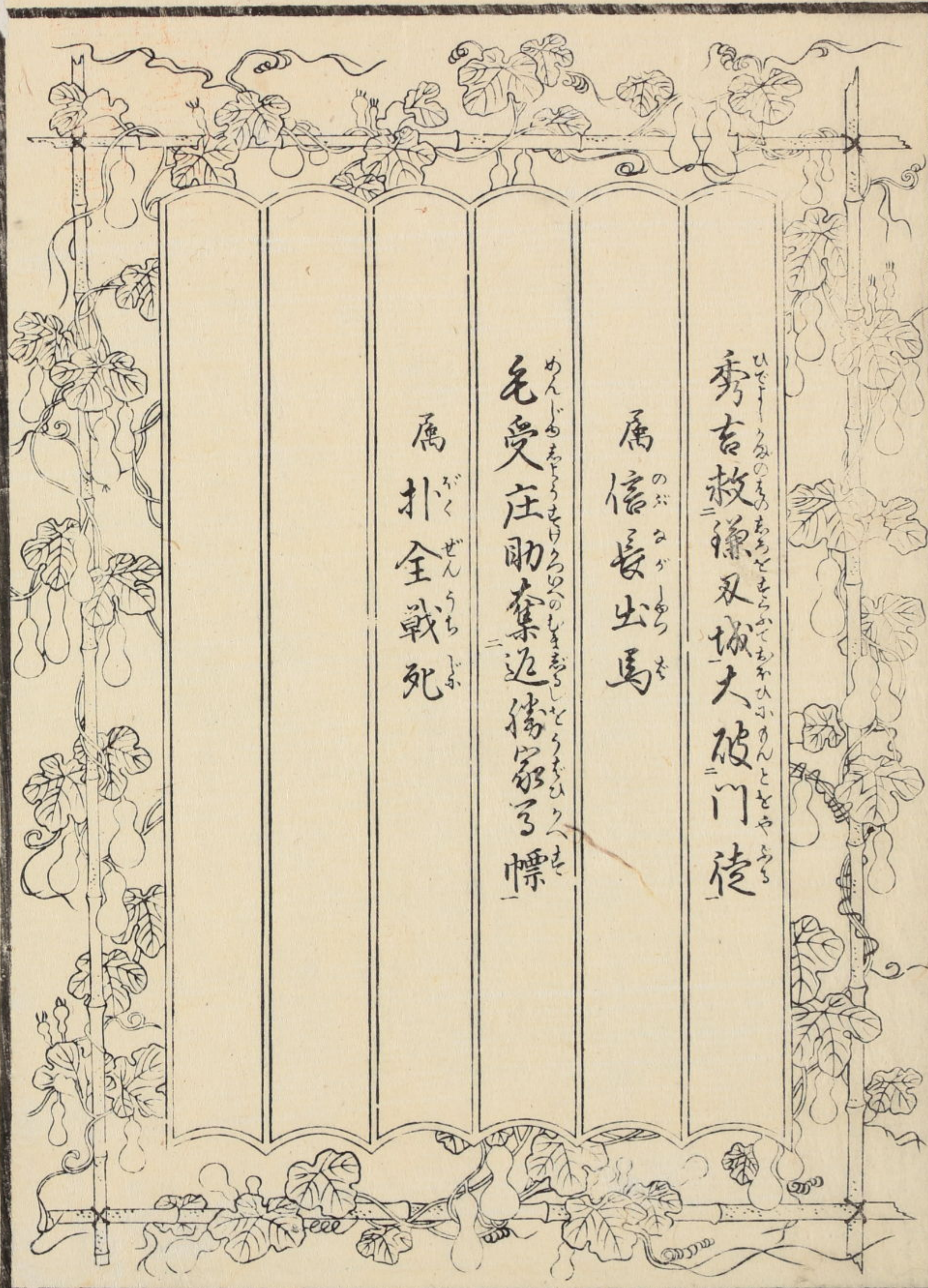
屬謀降磯野

秀吉救済又城大破門徒

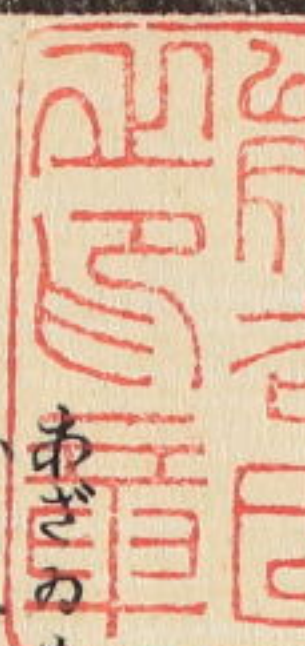
属 信長出馬

毛受庄助棄込諸家了標

属 朴全戦死



繪本豊臣勲功記四編巻之壹



江戸

櫻澤堂山

編輯

浅井朝倉追段隔木下謀属大實揆敵

一朝雪降る响へ青松二月の老を向枯木下侍の花を撃ぐ

遠小本下が討る不へ實小大成の瑞雪をりて赤松をりて忽地老

しめ枯木をりて華さしむる不作を得り。當天ハ十月十八日既

小秀吉が討むる不の極妙奇代の密計を。信長つゞふ小所しめ。

驗小実小々双の神策なり。方儀使卒們が困苦をりて歎を歎に

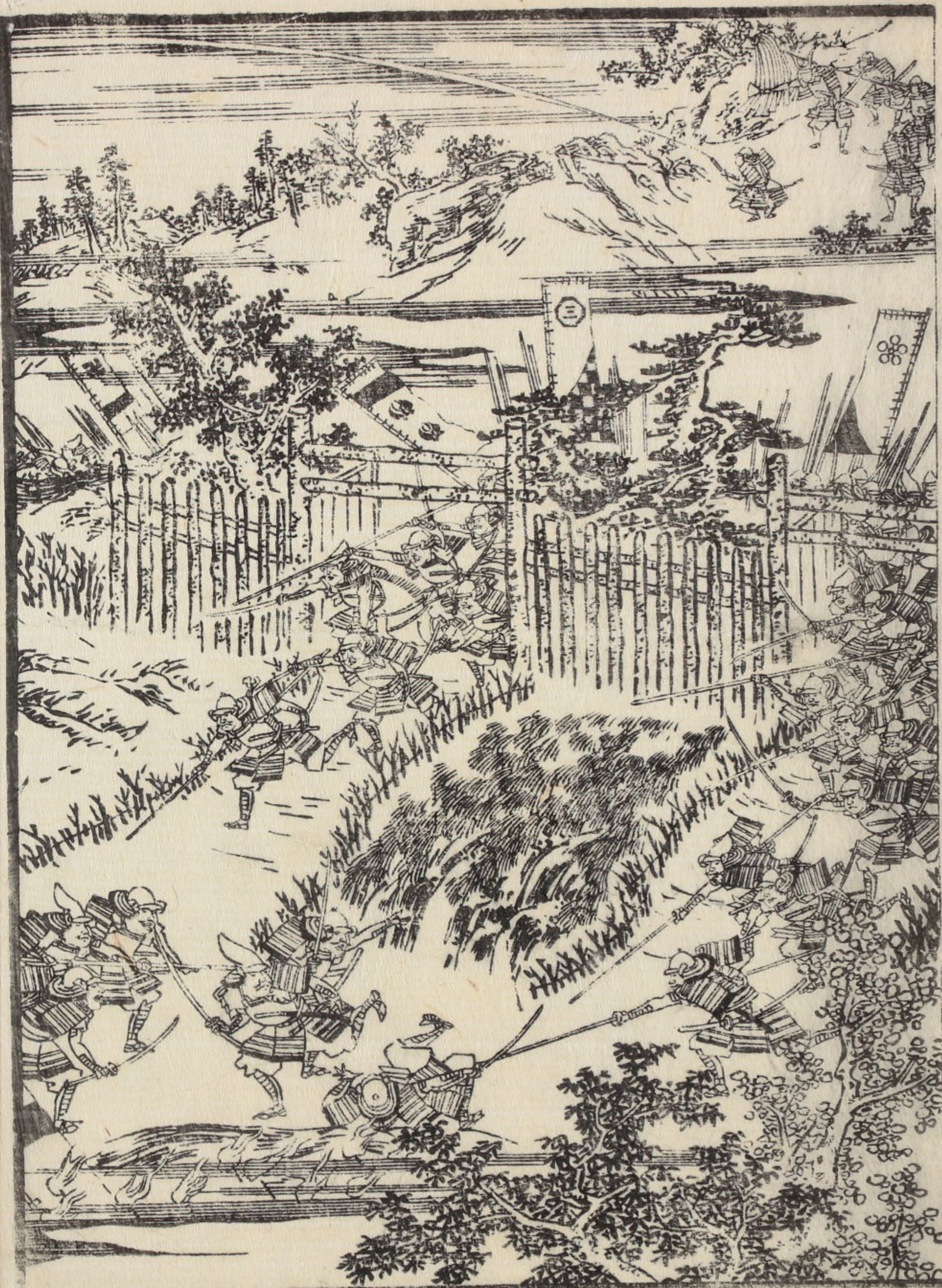
勾引。自軍の利得をなさしむる偉矣夫も隙時小用也まが却て壁便

となるりけり。と屢感嘆なり。多ひ時小緒將を召集め。形般小做せ

事もなく極寒の時節小朝ふ。對陣をる偉益こも覺(を寒機小

山門の衆徒
浅井朝倉の
諸軍士と
饗應と





と窺ひし。信長も所装束調ひ、河本陣より木下を残し、退せし
 是。河本は其士を従へ、世満、當天、梢、地、宇佐山と出玉ひ
 之井寺へ河入あり。合圖次第、小段数人と宇佐山の方と望ま
 せ、多ふ者木下秀吉ハ、暗号と通むる役と被り、本陣小段りて
 既小五更に時来ふ。是に、那條の岡、公軍小指揮と被り、臺へ入る。是に
 松明とて、四焼など振りしを、廿八日の月、みれば、露雲と照して、二羽
 列せ。大旗、小旗と先小建、大將、信長、方儀、宇佐山と退去の聲、よ
 せり。列と交系さざり、退く。孫吉、舟ハ宇佐山の頂上、小旗登り。敵は
 遠くを窺ふ。合圖とせしと待たず。於倉、義、果、津井、長、段、是
 を観て、そのや、織田、悔し、退陣あるぞ。逐撃せられん事と怖し、諸君と
 厭ふ。退く。ならん。小段、小段、退散して、日來の背憤、よれとて、と大急小

彌うて夥く。忽地天地も傾倒し。と怪しむる所へ。小ぞ。
 浅井の倉に軍を置。魂消すと。怪しむ。諸の敵を猶残り。會
 遇うてあり。つら。隊伍をきて戦へ。と。指揮を。さ。も。ち。
 後を引。と。致。さ。る。急。に。隊。伍。整。え。て。糧。糧。を。さ。る。を。織。田。勢。
 得。り。と。這。方。那。方。より。顯。え。出。る。く。屈。せ。背。散。せ。んと。號。を。起。
 する。勇士。達。を。横。無。縱。小。斬。起。羅。を。敵。山。の。麓。より。宇。佐。山。
 の。中。間。を。陰。謀。こ。と。連。り。る。浅。井。朝。倉。の。軍。を。七。八。増。小。
 絶。新。と。虎。怒。龍。憤。と。攻。起。る。一。瞬。間。の。話。と。こ。と。一。刀。半。途。あ。
 ち。と。小。勢。力。が。よ。て。右。横。左。往。し。逃。帰。さん。と。慌。噪。げ。ど。う。さ。い。
 間。一。條。條。と。さ。る。も。同。士。段。々。と。偉。大。方。の。ず。信。長。公。
 同。一。御。覽。あ。る。も。旗。本。の。勢。五。十。余。騎。あ。る。と。井。寺。と。撃。て。出。

豊地小馳若玉ひ懸くと。御指揮あり。つら。も。號。を。小。城。を。雪。
 士。候。猶。小。勢。と。擲。投。る。極。威。小。信。せ。く。捲。く。か。ど。に。西。家。の。
 敵。士。總。崩。と。り。浅。井。長。政。も。危。ふ。じ。と。赤。尾。兵。衛。も。小。助。け。
 ら。も。路。を。見。め。て。走。り。な。れ。朝。倉。義。景。も。放。く。小。比。叡。の。山。上。へ。逃。返。
 る。その。余。は。兵。士。八。方。へ。天。時。地。首。と。散。れ。と。こ。も。さ。め。小。屍。骸。置。
 る。こ。と。道。路。小。元。陂。が。上。小。陂。を。と。東。西。小。境。天。明。り。と。木。上。の。
 黒。白。も。顔。ふ。り。湧。く。山。上。へ。逃。返。る。も。常。無。死。人。員。數。を。と。
 領。と。信。長。は。下。知。と。ま。べ。決。と。遠。く。追。登。る。と。捷。威。と。り。又。木。の。
 陣。不。く。と。持。固。め。旗。幟。標。と。と。列。ね。最。嚴。小。隊。列。と。ま。は。ば。
 軍。威。弱。小。十。倍。と。弱。く。と。見。え。る。信。長。も。宇。佐。山。の。南。に。
 陣。小。援。と。り。段。段。敵。級。實。檢。と。と。と。諸。將。へ。是。を。御。名。一。寅。の。刻。

より已に割き金く四時をさるる小清水新倉の兵士に殺し
八百有余人織田の戦卒の戦死も七十余人ありと知ん則諸將の
隊小段提督級より本陣持参する實檢首々

柴田修理進勝家隊（段提督ハ其員二百十一級）
池田勝之助信輝隊（段提督ハ其員二百四十二級）
木下藤吉郎秀吉隊（段提督ハ其員一百九十五級）
佐久間右衛門信盛隊（段提督ハ其員一百九十一級）
丹羽五郎左衛門長秀隊（段提督ハ其員一百八十七級）
蜂屋玄庫頼隆隊（段提督ハ其員一百八十六級）
前田又左衛門利家隊（段提督ハ其員一百廿四級）
佐々内藏助成政隊（段提督ハ其員六十有五級）

稻葉伊豫守貞通隊（段提督ハ其員七十有八級）
氏家常陸道朴全隊（段提督ハ其員二十有四级）
安藤保賀守範後隊（段提督ハ其員二十有一級）
不破河内守時重隊（段提督ハ其員二十有三级）
明智十兵衛光秀隊（段提督ハ其員一百廿七級）
信長一々實檢首々。諸士の粉骨せしむる。森坂井依が戦死
の吊軍小勝利を得る。渠依も黄泉小ありといひと。いひは
しくおひならん。予も悦びのこまの過と歡喜の氣色をたぬし。
遂に諸將をめて言ひ々。参らせ。這圖をもぎを攻よ。小清水
井朝倉歳義ありとも。鑒小々。裏をくきに収くせよ。と。一と
別々同音小裏をく。信長もあま小むれをくら。稍所恩案の体なり

いともこのと 辟易をともおがむを 浅井の倉かゝるべ。六万をうりの
 軍勢あり。當朝うち出ー軍の、方々をうけつゝ、わが方の新
 あり。況や山と結切不あり。要崖堅固小勤つゝ、まづ容易小のせめ
 進ぐに、今日自軍十分の勝利とりつゝ、のちと直ー退陣あり。
 所計畧こそ萬全ならん。とあるなり。方信攻上て、方一勝する、响の
 今朝の戦、方信と軍威を失ふなり。と理をせめて、練ゆゝ。信
 長も遠理小屈せしむ。攻登るべき事と止し、退陣せしむ。計謀をせ
 よと始終未下、信せしむ。まづ敵方へ、明日小も攻上るべき勢ひと、
 まづこゝ諸隊へ觸らむ。軍備嚴密ふさむ。まづ未下秀吉
 と密謀せしむ。行かん。大將信長の命を蒙る。いそがし京都に就

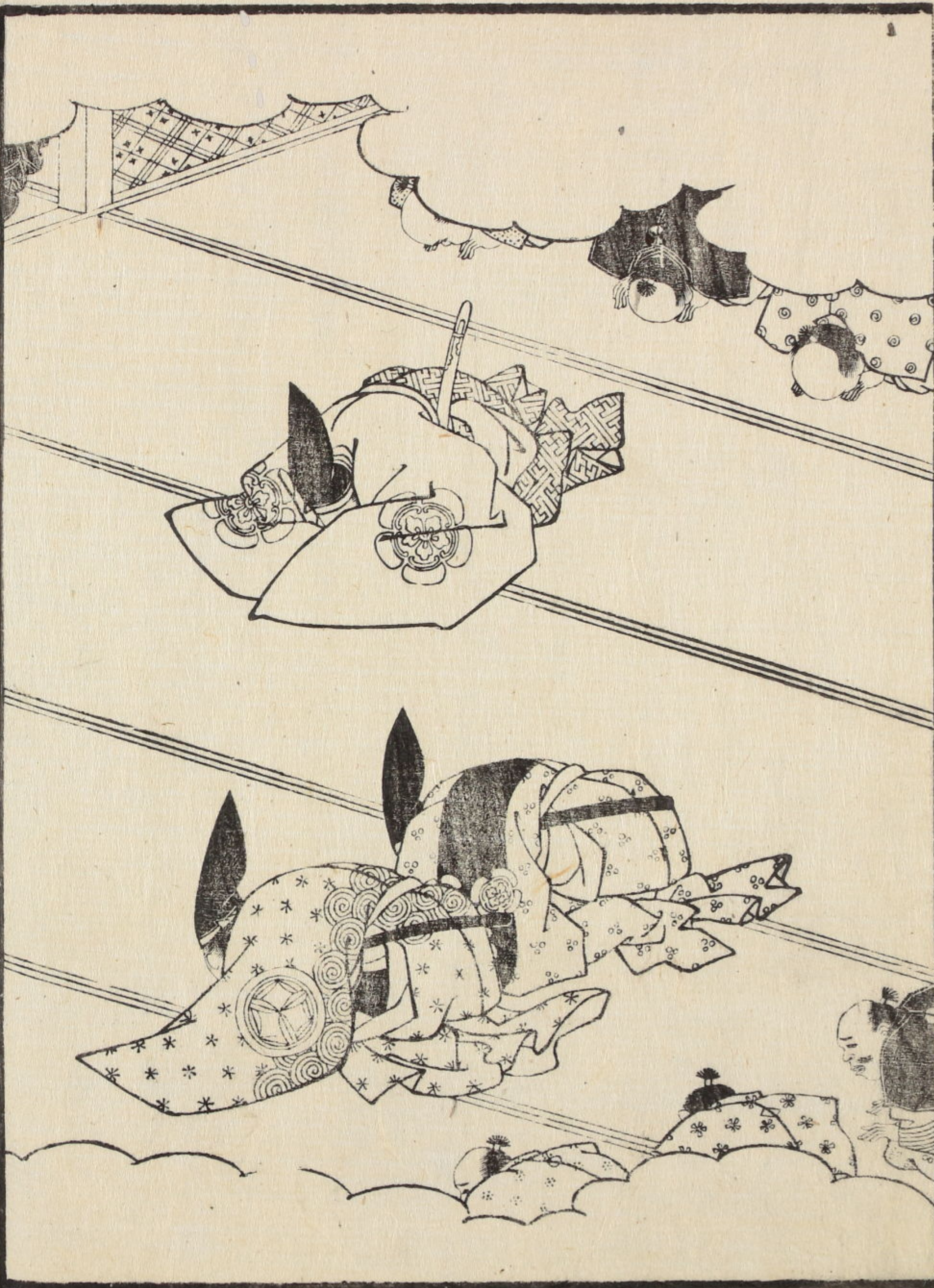
登りぬ。備も浅井の倉かゝるべ。大敗軍とありての
 後の信長と實小怖れた大將あり。と信を冷々恐怖せし退散
 ぶ。愛小も思ふ。と却て敵に攻められんと、只、夫のそと氣煩ふ。戦
 ふ氣色をさう小なく。方信を度小帰城なさん。と朝暮懐ひ、これ
 ば要崖の地小あり。と。稍退屈の心せし。困苦をうこそ、浅ま
 り。

蒙初織田浅井朝倉和睦属謀降磯野

蟠龍いも、天小昇る事と得むとの、能乾坤の機を信く。
 界隈の緯小章と、や然、本下孫吉郎秀吉、ひいて、主君小内
 意と通下。情小京、赴より。まづ東山なる、公方家の左陣まし
 る。を將軍、係とす。河内通と、怖ひ、譲ぐ言とを、うとす。

あり。さう。像く。浅井新倉殿。山小陣。より。賸。衆。徒。併。加。力。
くれ。ば。容易。小。伐。こと。なり。と。く。徒。小。月。日。を。過。せ。こと。法。衆。の。固。
窮。大。方。なら。を。第一。朝廷。への。恐。あり。是。小。より。て。及。な。む。と。な。ぐ。小。臣。
熟。く。思。慮。つ。ら。う。う。小。浅。井。新。倉。織。田。と。和。議。な。各。帰。陣。と。する。の。
あり。へ。公。士。も。損。ぜ。を。世。も。静。まり。て。國家。の。新。意。と。な。り。と。な。り。と。な。り。
の。義。の。林。中。の。新。沙。法。と。く。公。方。家。法。新。あ。つ。ひ。と。な。り。と。な。り。と。な。り。首。
尾。好。整。ひ。重。を。と。く。然。を。れ。ば。さ。れ。小。越。前。へ。新。滞。留。中。せ。ら。ま。う。と。く。
新。好。と。と。お。が。し。め。す。新。趣。意。も。立。う。義。衆。の。と。天。取。け。なく。新。奉。衆。
さん。恐。ろ。う。ら。公。方。家。の。新。内。意。と。奉。る。な。り。小。臣。内。々。傳。奏。家。言。
仕。せ。を。や。と。伺。ひ。な。む。義。昭。公。こ。ま。と。所。し。め。され。予。も。候。より。新。有。と。し。
と思。ひ。達。う。所。ある。小。能。こ。と。重。し。出。ら。ま。う。と。く。遠。事。汝。小。信。と。な。れ。ば。

美。備。目。小。機。計。ら。ひ。双。方。を。帰。陣。せ。し。め。よ。傳。奏。家。へ。い。予。う。も。別。
使。を。添。ん。と。の。疑。意。ゆ。て。上。野。中。務。大。輔。秀。政。と。新。使。と。と。本。下。と。
同。伴。せ。られ。こ。ま。小。内。意。は。新。書。と。齎。ら。る。傳。奏。目。野。大。納。言。輝。
賢。輝。の。御。一。當。遣。と。る。秀。吉。殊。小。歡。悦。な。り。直。地。小。傳。奏。以。館。
小。あ。り。し。れ。ま。づ。將。軍。家。の。内。書。と。捧。げ。委。し。た。緯。と。孫。吉。郎。と。
と。言。上。と。と。と。陳。ら。ま。る。輝。賢。の。願。く。より。公。方。家。と。と。二。法。
新。熟。意。なる。の。と。な。ら。ず。孫。吉。郎。中。も。諸。司。代。り。し。親。より。新。心。寧。く。交。
と。う。と。あ。ひ。あ。り。結。ら。ひ。新。中。の。ま。る。遠。遣。新。使。小。来。り。事。將。軍。
家。の。命。と。い。ひ。日。野。殿。甚。と。悦。ま。る。と。あ。ひ。新。書。と。捧。見。せ。し。れ。て。後。
者。吉。郎。と。と。と。と。孫。の。思。枝。と。新。所。あり。秀。吉。奏。圖。の。趣。と。首。尾。落。
と。く。言。仕。ぬ。草。め。と。重。と。と。と。勅。額。と。り。て。織。田。新。井。新。倉。と。和。議。



秀吉の
奇計
織田
朝倉
浅井と
和睦



十四日の曉、小志賀宇佐山を引拂ひ、船小泊りして湖水を満り、津田、
志津岸よりして山岡、濃中が館へ入る。いよいよ要時、休息せざる。あつた
井朝倉遠を退く。翌十九日、坪釜山、五ヶ村の陣を退く。いよいよ船倉の
越前へ帰國なり。浅井の小谷へ返らざる。諸又、彈正信長へ翌日、磯野
小右衛門、丹羽長秀、中途、小出迎ひ、百々屋浦へ請ひ、急ぎせ。種々
答應し奉る。信長を助るも、長秀を以て先頃一撥、強敵の機、今
うへに、根強く城をもち、堅め、更のむらむ、坂本まで、馳参り、この忠義
のかど、神妙ありと、所賞、褒め、しく、素行、如く、佐和山の押さへ、百々
屋浦、小残し、ある。遠く、小本下、藤吉、舟の横山城、は、將、ある。い、
して、落び、船、般、小、の、う、を、と、え、る。信長、あ、ま、を、介、し、召、和、議、調、ふ、う、へ
う、う、た、た、の、と、な、う、煙、ふ、煙、も、あ、じ、意、濃、小、立、城、せ、よ、と、命、せ、ら、る、と、さ、る。

秀吉、莞尔と、うち笑ひ、遠遭の和後、の、孫、薩、を、撞、て、夢、う、こと、を、制
するに、勢、弊、さ、る。へ、横、山、の、護、り、こ、そ、い、く、大、切、小、お、お、さ、る、う、頃、て
長、政、さ、る、う、で、渠、勃、然、と、て、手、祭、ひ、さ、る。小、屋、よ、れ、小、料理、さん。
漸、意、寧、く、思、ふ。漸、降、國、あ、せ、ら、る。と、實、々、に、そ、る。出、を、信、長
小、も、笑、さ、せ、玉、ひ、い、る。と、神、文、も、破、り、に、汝、を、ど、く、計、さ、る。と、翌
日、諸、軍、を、繼、る。い、ひ、濃、別、政、早、へ、漸、降、城、あり、り。信、長、當、年、の、
諸、軍、小、於、て、危、急、の、軍、あり、り、と、も、い、づ、も、勝、利、十、分、小、く、愛、知、坂、陣
あ、ら、せ、ら、る。越、来、せ、ら、れ、て、来、る。来、り、元、來、二、年、計、ま、さ、る。あ、り、ぬ、浩、る、長
閑、れ、来、り、日、と、速、へ、ん、と、云、諸、知、る、と、い、ふ。い、は、坂、本、の、陣、不、小、立、る。困、苦、や
あ、ら、ん、と、思、ひ、小、案、計、外、を、諸、利、を、得、て、將、率、こ、も、小、恙、な、く、堪、
樂、は、春、小、會、事、と、信、長、と、悦、う、ら、る。な、れ、ば、諸、士、も、誰、か、た、げ、ざ、ら、ん。

とれたまひりどぞ賀し奉る。諸又本下秀吉の志を承坂本と還陣し
てより横山城を固く守り。軍事小油断なきをこそた小右浅井
船倉が和平を自己と破まはしと計謀を達しけるが。越小佐和山
の城に磯野丹波を買ひ使より浅井を疎んと織田家小降参乃
より得へるを本下頼る密語しける。渠を登り降しめし尾小
継之諸城の将士を類屬んと一丈を案じ申す。情小丹羽が許小
引し磯野小降参をさそむ計後を案し合めしより。長秀頼小使
者と仕る磯野が許へ調遣す。浅井船倉と織田家の家令の和談
るのふこまば還陣せり。河色小も信長が方へ随従せし他人の難
判あぶらむ。信長頼る。是下は武勇を感賞し。只頼追慕せし
るなま。織田家小帰依し。本下は信長公方家へ新へまねかせ。

河直系小をさる事あり。使河思案と改せしを。本下遣しける
小より丹波も近來既小織田家へ帰依の心立由へ頼る。長秀小
書信を通し。懇ありし中をさる悦でこそと承諾し。並系も
べに義をとりて只頼時と密なるをぞ。計畧熟し。さうて。本下自
改阜小列王謀は始終を言付し。磯野を直系するをさる旨箇
極く小令属らる。然るべしと逐一演り由へ信長頼小決心し
まひ使者をとりて百々金満へ遣り。さる様吉部が面せし像く。丹
波守へ重し。所よと長秀へ本下辞あり。こそ小よりて五郎左衛門
従者ども四五人を引率て。佐和山の城小趣き。磯野買ひ小對面
む。長秀重し。出るや。先達より。是下の實義と主人信長
小達し。置這般いよく帰依の義を還し。さる本下信長感悦斜る。は



公方家へ言状し。則ち直参小かへらるべき。新参あり。能く當城
 佐和山へ清井の属城なり。是は下一殿公方家の新直参と
 うへ當城の在番。然るべく。こまふより。公方家より。別子町
 と下へかう。西近江高嶋の城主小補せられ。玉ふ。是は新直参
 のまじり。主人信長公方家の新参を奉る。新参を
 下へ置。是より。信長は書付と。取次へ。探へ。さふ。員正
 頼んや。改載し。雀躍をさす。さう。亦。目録の。お。新参は
 遠上へ。余小随ひ。る。鳩へ。趣く。ば。當城へ。是。小。清。い。え
 こと。因。く。月。木。日。丹。波。の。言。嶋。城。へ。移。り。る。ま。長。秀。の
 城。を。さ。え。て。攻。撃。へ。委。細。小。言。状。し。れ。ば。信。長。殊。小。に。悦。み。り。を。明
 ち。佐。和。山。の。城。今。の。ま。根。小。五。万。貫。の。不。成。せ。相。添。丹。羽。長。秀。小。随
 賜。る。ま。外。大。尾。の。城。主。中。濃。惣。太。夫。つ。の。小。若。退。れ。新。参。の。城。主。新
 庄。頼。の。も。丹。羽。小。随。く。降。参。と。是。余。木。下。が。智。謀。小。て。涉
 井。小。神。交。指。頼。を。破。らせ。當。城。を。せん。企。め。り。り
 秀。吉。救。済。又。城。大。破。門。徒。属。信。長。出。馬
 佛。は。も。能。方。便。品。を。説。増。く。や。戦。國。の。中。小。て。虚。云。の。方。便
 ち。う。ざ。らん。是。十。惡。の。一。小。て。聖。賢。は。憎。む。不。み。ま。と。も。天。下。の。為
 君。は。こ。め。小。忠。心。を。り。て。行。ふ。响。の。神。明。佛。陀。も。應。じ。ま。ふ。木。下。丹
 羽。が。謀。る。不。念。慮。く。的。中。し。て。清。井。の。有。城。こ。の。不。ま。で。當。も。み。く
 織。田。方。の。有。と。り。磯。野。新。庄。降。参。し。る。ま。清。井。父。子。今。の
 從。前。の。惱。乱。を。さ。で。憤。怒。し。使。者。を。り。て。織。田。家。盟。約。違。反
 の。罪。を。せ。め。ま。逆。意。の。黒。白。小。随。ひ。事。を。起。さんと。評。定。なり。先。後。山

公方家へ言状し。則ち直参小かへらるべき。新参あり。能く當城
 佐和山へ清井の属城なり。是は下一殿公方家の新直参と
 うへ當城の在番。然るべく。こまふより。公方家より。別子町
 と下へかう。西近江高嶋の城主小補せられ。玉ふ。是は新直参
 のまじり。主人信長公方家の新参を奉る。新参を
 下へ置。是より。信長は書付と。取次へ。探へ。さふ。員正
 頼んや。改載し。雀躍をさす。さう。亦。目録の。お。新参は
 遠上へ。余小随ひ。る。鳩へ。趣く。ば。當城へ。是。小。清。い。え
 こと。因。く。月。木。日。丹。波。の。言。嶋。城。へ。移。り。る。ま。長。秀。の
 城。を。さ。え。て。攻。撃。へ。委。細。小。言。状。し。れ。ば。信。長。殊。小。に。悦。み。り。を。明
 ち。佐。和。山。の。城。今。の。ま。根。小。五。万。貫。の。不。成。せ。相。添。丹。羽。長。秀。小。随
 賜。る。ま。外。大。尾。の。城。主。中。濃。惣。太。夫。つ。の。小。若。退。れ。新。参。の。城。主。新
 庄。頼。の。も。丹。羽。小。随。く。降。参。と。是。余。木。下。が。智。謀。小。て。涉
 井。小。神。交。指。頼。を。破。らせ。當。城。を。せん。企。め。り。り
 秀。吉。救。済。又。城。大。破。門。徒。属。信。長。出。馬
 佛。は。も。能。方。便。品。を。説。増。く。や。戦。國。の。中。小。て。虚。云。の。方。便
 ち。う。ざ。らん。是。十。惡。の。一。小。て。聖。賢。は。憎。む。不。み。ま。と。も。天。下。の。為
 君。は。こ。め。小。忠。心。を。り。て。行。ふ。响。の。神。明。佛。陀。も。應。じ。ま。ふ。木。下。丹
 羽。が。謀。る。不。念。慮。く。的。中。し。て。清。井。の。有。城。こ。の。不。ま。で。當。も。み。く
 織。田。方。の。有。と。り。磯。野。新。庄。降。参。し。る。ま。清。井。父。子。今。の
 從。前。の。惱。乱。を。さ。で。憤。怒。し。使。者。を。り。て。織。田。家。盟。約。違。反
 の。罪。を。せ。め。ま。逆。意。の。黒。白。小。随。ひ。事。を。起。さんと。評。定。なり。先。後。山

の城中へ使者をつらじ。長政の口は、せめて深きせうなり。去る
 信長、坂本におゐる。初、淀小随ひまゐらせ。朝倉、浅井と和議
 てのち、異変こそなれ。折書あり。その書に、乾々ぬ小森、裏を
 犯し、歟、謀せり。入小、安、属せり。將佐、せ、諸城、を、押、領、せら
 る事。不義、背道、の所、あり。所詮、折、折、の、院、小、も、な、ね、ば、ま
 方より、あり、さる、小、軍、馬、を、發、し、て、殺、出、せ、れ、と、怒、り、な、り、て、鄙、怯、を
 舉、止、ひ、偽、を、り、て、礼、物、を、茶、定、で、信、長、の、指、揮、を、り、ん、い、く、違
 盟、あり、小、於、く、い、を、信、小、當、を、に、朝廷、の、東、譯、小、再、を、朝、倉、と
 合、辭、ひ、し。信、長、は、罪、を、れ、ん、返、答、い、ふ、と、謂、え、し、さ、る、小、方、吉
 始終、を、聞、て、懇、懇、小、使、者、を、あ、ら、ひ、是、小、言、へ、て、重、き、事、を、命、せ、越、し、
 長政の意趣、一應、を、理、有、小、似、と、ま、と、願、い、所、遠、意、の、思、ふ、さ、る、な、らん

秋、主人、信、長、苟、も、公、方、家、法、執、持、と、す。天下、の、政、道、を、檢、攝、邪
 心、を、れ、を、職、を、ま、い、い、さ、る、偽、を、を、重、き、を、に、況、や、天子、は、物、渡、あり。
 目、の、將軍、の、嚴、令、と、を、る、を、や、大、丈、丈、の、盟、約、泰、山、の、像、し、朝
 倉、浅、井、の、両、家、を、い、く、輕、々、し、く、思、さ、る、い、く、知、る、ね、ど、も、信、長、は
 所、存、小、お、わ、て、い、單、小、論、言、台、令、と、重、ん、ど、万、民、を、聽、む、が、ゆ、へ、小
 和、を、志、の、んで、和、平、せ、り。然、る、小、み、ん、ぞ、今、小、及、び、盟、を、破、り、れ、を、企
 世、と、類、を、不、謂、わ、らん、や、と、東、檢、別、に、凶、徒、と、い、ひ、本、願、寺、な、どの
 門、徒、一、擧、と、征、伐、あり、つ、れ、を、な、ま、さ、る、と、も、之、家、和、平、は、後、な、ま、上、
 方、筋、へ、出、馬、せん、と、諸、人、の、義、論、も、い、う、や、わ、らん、と、點、止、か、る、不、あ、り。
 遠、を、り、て、信、長、の、謀、を、な、ま、さ、る、事、を、察、観、あり、將、又、磯、野、員、ふ、こ、の、
 双方、和、議、の、う、へ、なる、ゆ、へ、の、遺、恨、も、な、け、な、と、て、公、方、家、へ、忠、義、を、な、これ。

尚たう淺井せんせい家小愛せうあいあらば。救たすけせんとの心こころかけして。趣おもむきと願ねがひ出い公方こうほう家けの
 命いのちと世よなり。高たか鳴なりは城しろまゝなり。諸しよ佐さ和山わさんの信しん長ちやうは勢せいをりて。さる
 て。を命いのちせらる。こまふよりて城しろ代しろしろを入い置はまゝする。所ところ小こ谷や小こを
 磯いそ野のが老母らうぼと長政ちやうせいを道みち小こ殺害ころせしこと。是これ何なんといふ所ところ謂いふや。單ひとへ小
 織田おだ家けと公方こうほう家けへ解と世よ話わ小この面おもて敵てきならん。然しかバ却かへて遠とほ方ほうより。こま
 罪つみを礼れいを該がいひまゝ。た右みぎ事ことあら小こ志しらむとまゝ。稗はい使し小こを所ところなむ。
 まゝ朝あさ妻つま大尾おおいの兩りやう城じやうの守將しゆしやうとて。還かへまはし。中ちゆう護ごあら。小こ止事しを
 得えむ。中ちゆうを。と。調てう量りやうのまゝ。小こ長政ちやうせい使し者しやと違ちがひ。斯この同どう訊しん小こ及およな。と。緯こ。
 秀ひで吉よし更さら小この意いと得えむ。然されども。長政ちやうせい折せ書しよを破やぶり。礼れいを好このま。せ。多おほふ
 小こおわ。く。の是こゝを制せいする。小こ方ほう御ごは。勅ちゆう發はつ台だい命めいを重おもん。せ。む。盟めい約やく遠とほ愛あい
 せらる事こと。定さだめて。所ところ不ふお。あ。つ。て。ならん。が。衆しゆう民みんを。あ。い。ま。と。諸しよ卒そつを。勞らう

玉ひなば折書をりと守るにあらざるを信長のぶながは所好よろこぶ小おめていふをとしも疎うと
 き不意ふいなり。と理りと責せめめて返答へんとうしるまへ浅井あざいの使者あしやも道理このり小休きよく
 再びまた義よしかなる詞ことばなく。暇いとまありて歸かへりり長政ながまさ小初はつと演説えんげつをこゝを所きこ
 て備前守びぜんのかみ怒いかまをく烈はげしく。渠あやまが言ことハ飽あまで已やまを翻そるなり。その
 義よしかならば遠方とほより。目小めの身みせく惘あやまくまんと一の謀畧ひつろんくを案あんじ
 出いし石山いしやま小願寺がんじを將佐そうさ小恃このもと。江州かうしゅうの大房おほふさうを依よりて數多あまた諸しよらひ。
 その門徒もんた係せの勢せいをりて織田家おだけ小屬ぞくせし國人こくにん輩たぐひの諸不あまた能よく城まちを
 責せめさせんとす。その大坊おほぼう主しゆ門々めんめく小ハ

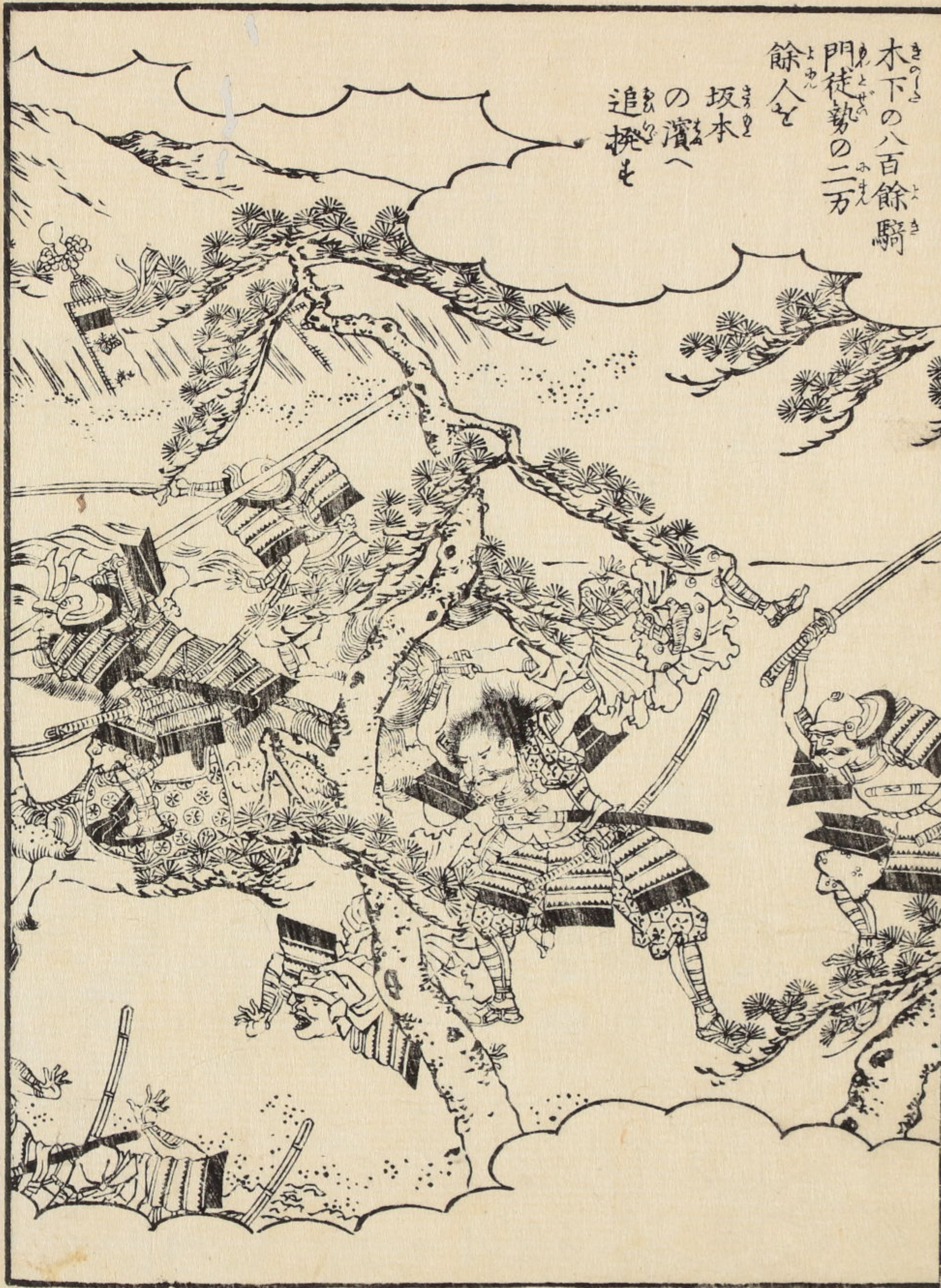
其浦の誓願寺 そのうら せいがん じ	新庄の金光寺 しんじょうのきんこう じ	朽木の常願寺 くものじょうがん じ
如道府 じやうどう ぼ	長年房 ちやうねん ぼう	蓮里房 れんり ぼう
四千餘人 よみん	二千餘人 にふみん	一千餘人 いちふみん

上洛の順慶寺	忍澄房	五百餘人
由漢本の法願寺	系船房	二千餘人
谷田の真宗寺	覺地房	二千餘人
唐川の起照寺	窓月房	八百餘人
長澤の福田寺	真如房	四千餘人
下坂の福照寺	智愚房	三千餘人

主勢都合二万三百有餘人。會をまくの檀越をうあつて、
 方より蜂起せしる長政、大少敵び競る。法井家の長中
 島日向守、赤井新七郎、野村金庫、領を軍奉行と定められ。
 まづ箕浦を攻陥さんと。波石の住人堀次郎が籠りし。強は
 みの城小推進。頃、同年二月六日、箕浦の折、願寺を教導

者とて先陣小進せし。軍小熟ぬ一揆といども。二万有餘の大
 軍は、巴要崖、官に謙のみに十卷、木卷小推捕、圍息をもつが
 で攻起る。堀の後見多羅尾右近、樋口三郎、多満を御と、
 一々防戦せしども。敵の雲霞小等、大軍一刻ごとく入替と。自
 軍は僅五百餘人拒抗、方術もや竭て、既小危く、いへり。這
 向、木小秀吉の謙のみに落城せし。うち、後援をさんと、かきども生
 怕、横山の城中、小後、二千人をうめま。二万有餘人の敵、前へいせ
 向ふ事難しと、かきど。救をせん、叶ふまじと。二百餘人は城を守
 らせ、還る携つて八百餘人、謙にみ當て、殿出る。かきど、士小向ふて、東
 さるや。敵の大勢、なんぬまきども。に氏武士の類、小く大將分、坊
 まり。軍は進退全う。ど、退、敵さん事、寧ろ。破敵とて、もなり

木下の八百餘騎
門徒勢の二万
餘人を
坂本の濱へ
追換も



像。天狩地首して逃惑ふ續て清願寺。順慶寺。常願寺。何の
備くを二無と小強起る。遠駒澤の如く城中も木下が
救ひ小臂力を得る。多羅尾樋口。敵く出前後を包んで烈
戦ふ。二万余人と所了も。越々小ありて乱動。越前まで
ありて敗走を木下程も小臂を寛めを退さく。破挫るに
門徒の一揆途を失ひ坂本境の湖面へ員を召して退稠を
溺死する。後木下勢もやこますと提喊あがて退返を
勢ひ。四天の如く。修羅軍卒を破る。像く。辟る。小又の如く。れ
初。孫吉部秀吉の殿捕。敵をも。敗走へ。魏らんと。せ。か
原。東一揆あり。木下。河實檢。も。及。ふ。ま。じ。耳。鼻。を。り。て。ま。じ。し。と。
使者。小。り。せ。て。敗。走。城。へ。提。軍。の。事。を。言。上。る。れ。ば。信。長。を。と。

所。ゆ。こ。ま。木。下。が。軍。功。を。大。小。賞。美。し。門。徒。一。揆。の。強。動。を。得。
是。長。政。の。催。し。り。し。不。あ。ま。は。浅。井。軍。を。解。る。人。の。遠。方。より。出。
馬。や。せ。ん。と。命。出。さ。る。と。り。る。と。木。下。秀。吉。今。始。く。河。見。合。あ。つ。く
然。る。と。と。練。止。り。る。小。強。方。を。く。江。別。敷。向。を。止。ら。る。と。小。尾。別
の。境。より。長。常。の。一。揆。も。ま。ま。坂。本。の。對。陣。の。ま。だ。織。田。秀。七。郎
を。殺。り。る。と。い。ふ。傳。を。せ。玉。ひ。る。と。遠。駒。河。余。力。あ。ま。は。長。常
境。小。出。馬。なり。石。山。一。揆。の。輩。を。誅。伐。せ。る。と。思。い。建。同。二。年
五月。十日。五。万。余。人。を。引。率。せ。る。と。い。ふ。を。分。ち。て。二。道。より。續。々。こ。し。て
推。進。す。中。道。通。の。大。將。ハ。佐。久。間。右。衛。門。尉。信。盛。山。田。三。左。衛。門。津。田
市。之。重。長。谷。川。丹。波。中。和。田。新。助。中。寄。豊。後。中。一。万。余。人。西
兵。濃。多。海。口。より。長。崎。へ。進。る。大。將。ハ。柴。田。修。理。進。務。家。安。孫。

今多量にの
通張りて四
石をもち福
清とてと
清へ入る

へ三河の海
西のあり
村のあり
列のあり
小のあり

伊賀守稲家伊豫守氏家ト全市格九舟なる。飯沼勘平、東原土佐守塚本内膳九毛、倉庫頭不破河内守伊。二万余騎あり。大將信長の所旗、其の精を撰て二万余騎。當日は三河の海を出張せしむ。而して敵大。長崎前後の地理を精しく、河原あり。小を双の要處あるを、敵大堀小て擁護。列伍嚴重あり。是をこえを。休小攻んと。自軍も若干挽毛を。まづ遠般の帰陣と再び軍馬を費さんと。退を。趣を。徇ら。然れど長崎の城。新た系免。信長出馬と。所りも。近々を。在の門徒と。語ら。雲霞の如く屯集。防戦の準備急り。奇を。小埋。伏させ。信長を。段んと。計り。小登。くも。敵。計策を。察。一。至。ふ。新。陣。中。道通の佐久間。伊。一万余騎。道中。難。く。兵。濃。路。入。小。々。々。出。る。

段などの憂いあり。岐阜城當て退く。一ぬ

毛受店助棄近勝家馬標。属。扑。全。戦。殞。

義ありて。勇。あ。き。者。は。往。来。小。道。諸。を。勇。あり。て。智。ある。もの。の。進。退。う。み。ら。む。猶。豫。の。心。あり。後。小。信。長。の。智。勇。兼。備。の。大。將。を。見。て。敵。の。計。策。小。隙。を。早。く。も。退。陣。せ。ら。る。る。茲。小。道。諸。に。より。推。進。さ。る。柴。田。伊。が。二万余騎。の。金。糧。勇。の。公。士。な。ま。み。敵。陣。際。近。く。推。進。さ。る。し。軍。使。来。り。て。退。を。告。げ。徇。知。ら。る。る。小。う。ち。警。戒。自。地。小。退。を。準備。し。る。が。款。を。速。く。も。と。め。て。視。察。し。退。段。せ。ん。と。な。る。由。一。後。陣。を。定。て。退。き。る。ま。づ。中。一。の。敵。旗。の。柴。田。修。理。進。後。家。二。番。の。安。藤。伊。賀。守。等。こ。柴。田。氏。家。ト。全。り。并。小。柴。田。が。巻。子。さ。る。伊。賀。守。務。豊。あり。二。部。の大。將。敵。駈。く。後。く。退。と。退。く。所。を。長。崎。門。徒。大。堀。小。々。々。と。退。

来り。柴田が隊伍小喰着道を通じこぞ擡起。備家原武勇功者
 の勇將のみ六隊伍を固めて徹磨も發せし。破拂ひく進軍。款を
 たらひを諸將を四五町曳揚て。仕属せしと思ふ。不小門徒は一揆
 頼りより。計り張け。四小や。五十艘の早船を推さく。太田川を流
 小運ふて馳より。弓馬銃を赤きく。横合より擡起。讀より門
 徒の奴原大帳一層小群り募り。隊伍を棄てて攻めたり。中ぞ柴田
 が急率大小銃を發し。鉄炮ふち崩され。人員死に。既小軍
 と見えたり。れが修理進勝家。そぞ一世の大事あり。とさうと鎗を推
 送。うづく款中へ擡て投。勇猛なり。小血戦。なるが聲出。鉄炮の
 急率散の如く。陣隊あはせず。飛来りし。備家が股小當り。さき
 痛頻りあり。とさ。弱みて見せ。不。自軍の勢。惣れ。小もあらんと。

そきと怖きて鞍が根小く。堪へて士卒を勵まし。稍小丁やど退れり。
 がい。う。ん。備家が。金。新幣の馬標を。一揆の。士。小。棄。さ。り。中
 小。山。口。幕。あ。り。と。り。の。大。旗。不。款。の。野。武。士。の。彼。馬。印。を。さ。く
 さ。り。と。げ。鐵。田。家。の。勇。士。と。呼。ば。れ。る。鬼。柴。田。備。家。の。さ。り。の。如。く。降。参
 あり。殘り。れ。ども。會。階。小。降。も。や。と。れ。と。呼。ば。れ。て。吐。と。一。層。小。笑。ひ。れ。
 備。家。大。小。警。れ。怒。り。形。馬。中。と。棄。さ。れ。る。不。面。目。小。退。く。べ。投。込。さ
 どん。ば。あ。る。と。と。あ。せ。る。小。隨。ひ。を。院。無。く。痛。を。費。さ。り。し。る。身。体
 まで。自由。あり。と。既。小。馬。より。落。ん。と。さ。る。と。老。黨。頻。小。諫。止。し。こ。の
 来。退。さ。し。と。と。制。さ。る。と。備。家。眼。を。怒。り。し。こ。と。歳。夜。と。な。れ。合。戦
 小。難。義。の。敵。軍。と。な。と。と。と。も。今。日。の。如。く。自。軍。を。換。し。名。も。な。き
 一。揆。の。奴。軍。小。退。却。せ。る。と。朽。憾。さ。そ。き。さ。り。あ。る。に。馬。中。と。棄。れ

毛受庄助
敵中へ投て
御幣の
馬標を
捉へ返す

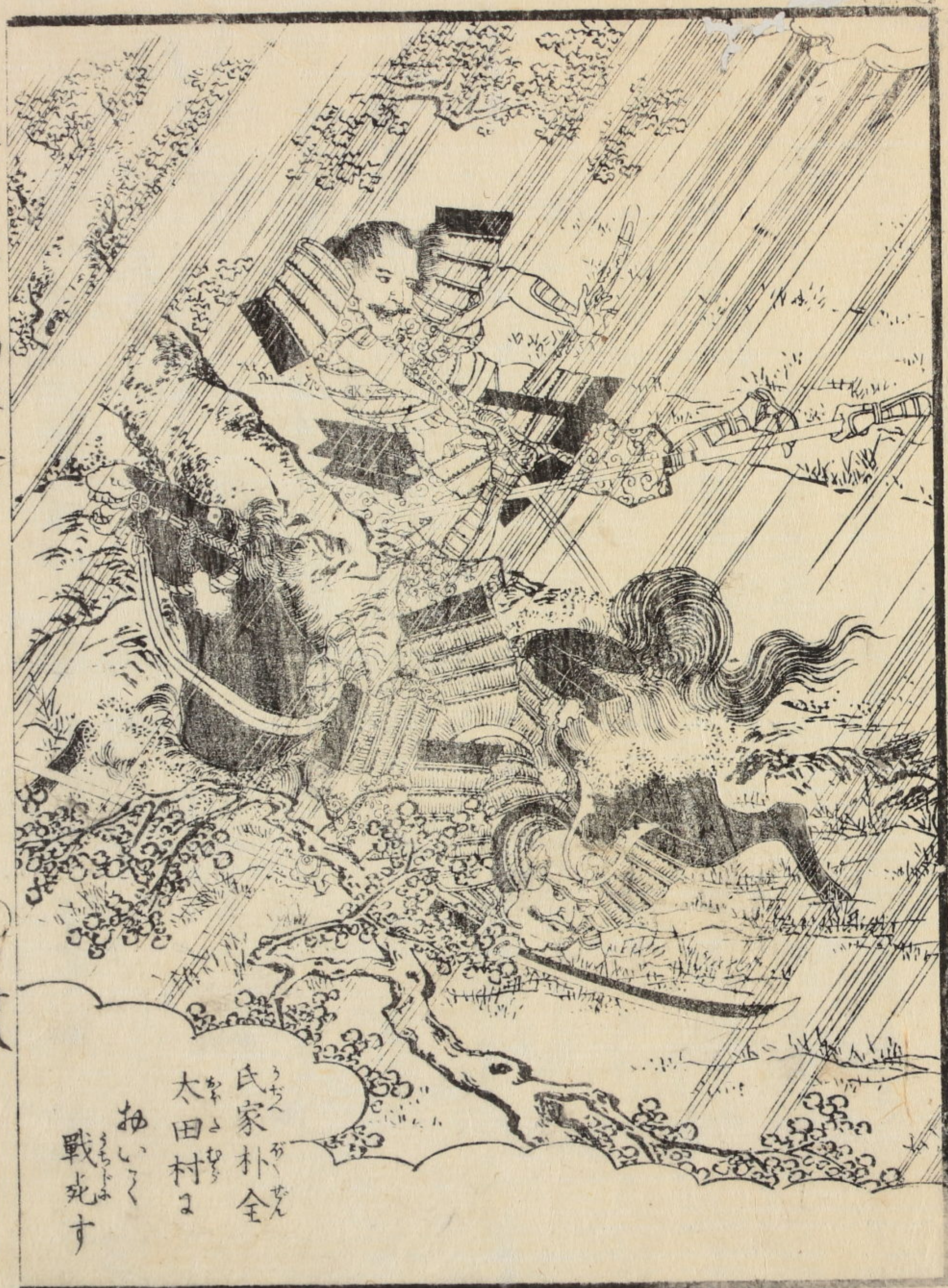
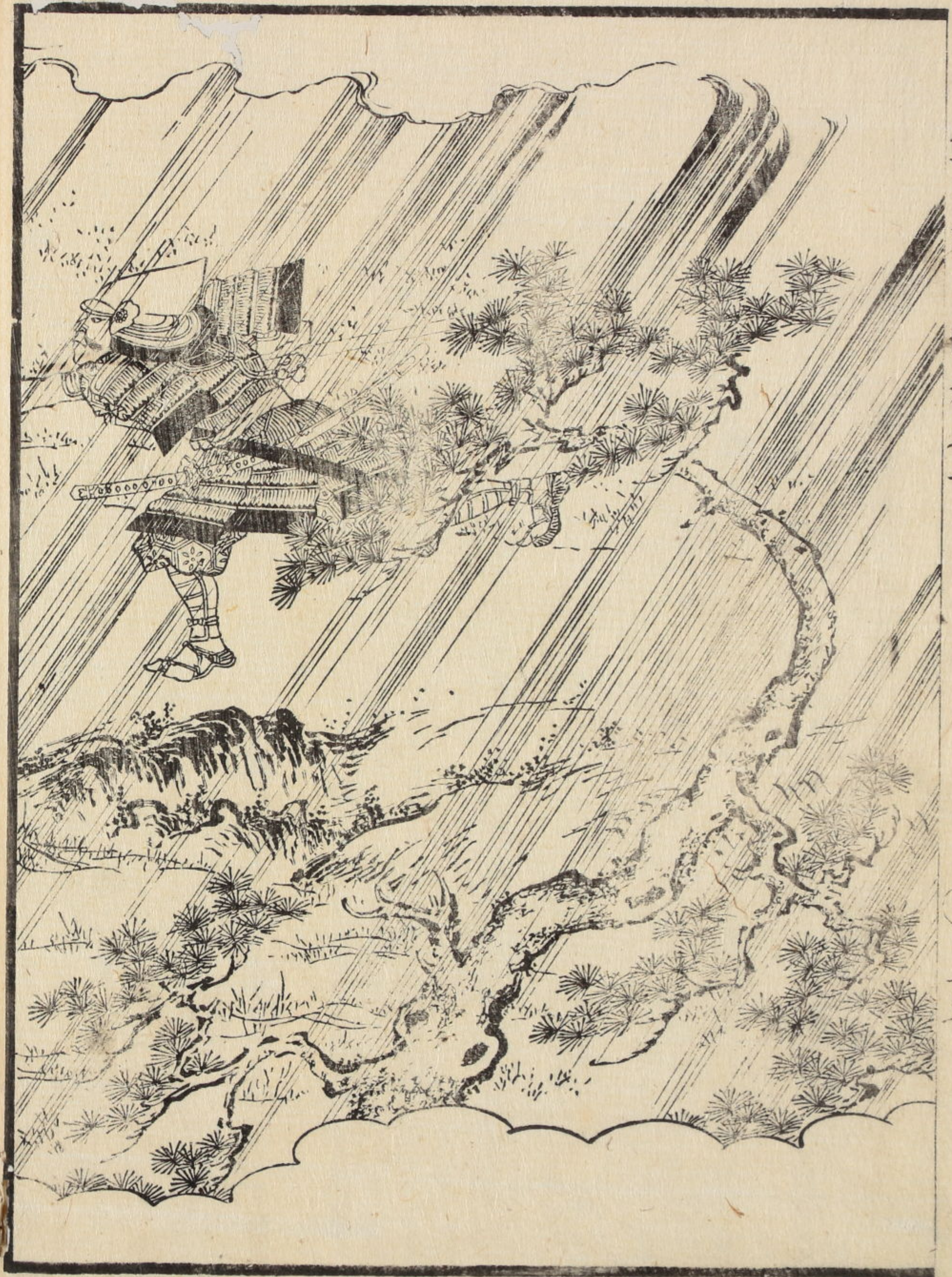


ころ傳の念をさし、遠東退る後付まで汚名の雪を事にあじ。
 尚馬標を招き、どんば戦死するとも退くはじと背八小割るる。
 り。怒り味んで進まんとも遠く柴田の庵に、毛受庄助照
 系といふけし生年積りて十七歳傑氣を、双の少年よりが実
 と是よりて票をさう。切折心を旁に、至る波馬標を招き、んと
 大將の進ませるゝ所、小あゝと遠事、其小任せゝゝ、事小招
 返し、票さん小と謂きて招き返し。覺を脱捨せず、くぬぐり棄
 大量小あり、強敵を、門徒一撥、大勢あり。彼を強き、是より
 がし、正先小を、推東と毛受庄助照系、一撥は、さ小、れ
 こ、山口森あり、小近づた、只一段、小あり、例。馬強を、かつり返し。
 右手小、大た刀あり、持し。退つ、奴軍を、吹伏、難を、或ハ、曉報し。

諸小、里、露、露の雲を、破る、如く、是を、涯り、小、馳、属て、彼、馬、強、を、首
 軍の陣へ、参、詣、招と、招、稱、際、近く、退、東、敵、を、と、近、あ、せ、と
 只、單、強、進、足、不、仕、の、敵、中、へ、一、喝、叫、んで、切て、招、前、後、小、り、つ、く
 一、撥、軍、を、一、刀、之、後、立、降、と、な。瞬、際、小、敵、陣、ハ、十、五、を、ろ、露、紀、の、
 勢、小、門、徒、軍、近、あ、り、其、一、個、も、な、く、あ、り、あ、り、て、見、へ、う、る、と、後
 家の、下、穽、と、と、井、と、久、八、中、村、興、た、志、保、庄、助、と、敵、を、海、じ、と、殺
 十、強、一、度、小、招、き、返、し。毛、受、を、救、う、く、戦、ふ、所、へ、安、敷、は、賀、吉
 範、後、強、を、率、く、切て、招、一、撥、軍、を、退、敵、。柴、田、が、を、退、け、る、れ。
 庄、助、も、事、小、道、出、自、軍、の、陣、へ、退、返、を、傳、言、が、人、あり、の、嫌、し、こ、小
 庄、助、が、堂、を、招、く。感、涙、數、行、流、し、て、謂、ゆ、は、弱、年、あり、と、人、と、あ、れ、
 謀、といひ、勇、猛、といひ、實、小、なり、れ、勇、士、あり、忠、信、一、途、小、敵、中、へ、強

投馬強を棄てて我大和守を安んず事功をいん至忠を
いん辭さふ小のけしと感悦をて止りしが猪家の一字を附ふ
毛受は助家照とぞ名をよせたる然る小安孫伊賀ちハ柴田が
跡に清和て後殿とあり退き而て門徒の一揆属慕ひかめれさ
んで退きと範倭自燃小烈々一掃を勇を奮ふて戦へば法
休を死一揆軍當ふ小となく散れを便る隙は退けと謂間もあ
せむ影雲の一揆雲霞は像く起りて奮動なて退き安孫家
の老黨福田たを今枝源を所旋風の如く小提て返り怒烈を
くど血戦を伊賀ちも武士を励ましとる瀟々推して一歩へ退ひ
まふハ退き一二町ふハ退きとる地理分岐の一揆軍をじとる
馳けく遮りたる小安孫惣主従とも小勇を果殊小堀の隊伍を

是ハ戦死を負懐くを將も危やとる機會を之番隊ハ
氏家ト全棄示土佐也敵活動平と一隊小あり返り合せて退
き款を右崩た崩小吹きとる安孫惣主先小多て軍道計
退け日也西海小傾く機會を大雨頻り小降中野路を
清くして馬蹄もいづ花ふるも安行殆とるを右小堀を
をて黒白も分ぬをとりて退きとる罪を門徒一揆ハ
得たりや清くと林間葦程の閑道とて敵援織田勢の前進を
きと會止る不得の氏家ト全も遠形勢小あきれて退き小
てハ自陣の武士難罪大方ありとて大軍戦死をばなまき幸
九毛市橋ハ右田村七を安孫陣取るとして所使をりて恃まん
一士とせし世謂違き退きを好むと罪ありと陣取を退き



氏家朴全
太田村
戦死す

べんきバ。漸加勢時むと謂贈る也。九毛市橋こまを譲り。加勢のよじ
 返答をよつてを田と志し。素原飯沼讀を揮て。戦ふ際小ト全
 る太田村まで退き。市橋九毛が陣小投らんと心結く。馳せあ
 る。而小こいひふせ。内外より大勢一度小あめひて出氏家の家士を二
 もあまし。せとと推提園む諸ハ市橋九毛の軍。衷心ほころもの
 ならんもや。一生懸命なり。死ぬやくと苦叫て。顛ぶ起つ戦ひなり
 こま九毛市橋が軍あつて。太田村の住人太田をきつとひ。もの
 小稲葉の城小有るが。衷心なり。一揆と熱合。不意小ト全敷の陣
 へ推進九毛市橋を返ち。せ。火急の要事小ト全を救ふ
 べ。れこころなむして。遠く矢濃迄退き。なるが太田村をきつとひ。これを知
 小ト全来。バ殿捕とす。つとも知る。氏家入道僅の勢。少く外を来る。

ころより得ると太田の従卒衆後を色々。提園と道にし。り。と起
 小ト全合を。や。是を。なり。と覺悟を決。自。澹を推提。四角八
 面小憤當。と。故。数。多。擲。石。を。戦。の。働。は。し。る。が。雨。秋。の。晴。は。な。く。秋
 て。草。生。治。馬。を。き。つ。と。ひ。と。戦。う。と。馬。蹄。踏。く。深。く。入。り。て。自。由
 る。と。さ。る。と。市。を。机。地。り。つ。て。赤。と。め。られ。来。先。さ。る。身。の。戦。ひ。勞。れ。遂。小。戦
 死。な。り。と。さ。る。と。一。揆。の。軍。首。提。園。と。群。り。あ。る。と。先。等。あ。る。西。尾。勅。を。傷
 素原右近。河村孫。を。傷。種。村。助。六。依。主。人。の。首。を。採。じ。と。九。横。を。き
 て。血。戦。々。一。回。小。戦。死。し。る。と。小。原。良。を。き。つ。と。ひ。全。目。来。情。を。り。け。て。
 是。を。憐。れ。み。小。姓。あり。と。削。修理。庵。と。い。ひ。る。が。主。人。戦。死。と。介。より。も
 後。殿。の。場。中。より。只。主。人。一。人。に。出。り。高。村。小。原。属。と。一。揆。原。を。攻。め。し。
 主。人。の。亡。骸。ハ。何。と。あ。る。ぞ。い。づ。ち。あ。て。殿。を。き。ひ。り。ゆ。と。治。川。と。く。馳。通

